

# 下水道の始まり

1875年(明治8年)に東京で分流式下水道ができました。下水処理場ができたのは1922年(大正11年)です。東京で、コレラが流行した事が下水道作りを早めろき、かけになりました。日本で、最初の下水処理場として、大正11年(1922年)に東京都荒川区に、三河島処理場ができました。

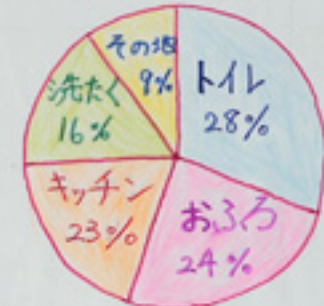
# 私たちにできる事

- ① 台所から油や野菜くずを、流さない。⇒油や紙などで、吸い取った残りゴミを出すお皿などの汚れは、ふき取ってから洗う。
- ② 雨水ますに落ち葉やゴミを入れない。⇒ここは、下水道の入り口の一つ。雨水が流れなくなってしまう。こまめにやしましょう。
- ③ トイレにトイレットペーパー以外の物を流さない。⇒水に溶けないティッシュを、水洗トイレに流すと、下水道管が詰まるので、やめましょう。
- ④ お米のとき汁は再利用しよう。⇒とき汁には、植物にと、ての栄養がたくさんある。庭木やベランダの花などにまいてあげましょう。



# 私たちは、1日に

230Lも、水を使ってる!



トイレ…13L お皿洗い…60L  
お風呂…36L はみがき…6L  
洗濯…90L

# ① 快適な暮らしをまもる

私たちは、毎日あたりまえのようにトイレをしたら流します。しかし、今世界では、約25億人がトイレを使えない暮らしをしています。世界で、そこへ来てうんちや、尿を流したり、ビニールぶくろにいれて、そこへんに、捨てています。子どもたちは、それをよけて遊んでいるのです。

# ② きれいな水辺をつくる

私たちの家の台所やトイレは、海や川につながっています。40年ぐらい前、私の家が子どものころのたまた川はとても汚れたそうでした。現在の海や川がきれいになっているのは、川の近くの水再生センターで、汚水をきれいにしてから、川や海に流しているからです。

# ③ しん水から街をまもる

たとえば東京に、1時間あたり5cmの雨がふったら、ふた雨は、下水道を通って海へ流れて行きます。もし、下水道がなかったら、道路は水びたしになりトイレや洗いや、洗面所から汚い水があふれ出してくる。汚い水は、バイキンがたくさんあって、かんせんしょうなどの病気の原因が広がってしまいます。

私たちが、毎日の生活の中で、下水道をまもる事は、とても大切な事です。

# 下水道って、何だろう？

# 下水道新聞



発行日  
2014年8月26日

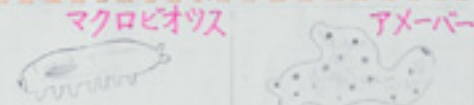
発行者  
畑中セリン

# 家の周りの下水道の入口



# なぜか生物がよこれを食べるのか?

下水にふくまれるちま(お米のとき汁)やリン(保)が原因となり、汚れて異常発生すると、海へ赤く凍まる赤潮、か念生する。アラシクが大量に酸素を消費するため、呼吸が出来ない状態になってほかの生き物が息がせいでなくなり、たから、微生物がよこれを食べています。



クマもよはれて、決まった形をしていない。足が8本あって、せん、体の形を変えながら移動しています。

# 反応槽にいる生物が水をきれいにね



# 感想とまとめ

私たちが見えぬ所で、あつた、たくさんの人が働いて、たくさんのいみがあつた事が分りました。毎日、あたりまえのように使っている水が、どうやって海に流れているのか分りました。

# 有明水再生センターへ行ってきました!



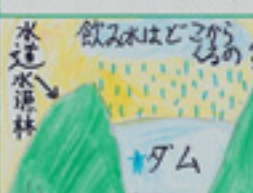
**反応槽** 18時間かかる!

**第一沈んでん池** 2時間かかる!

**第二沈んでん池** 4時間かかる!

東京都の下水道管をつなぐと、1万6000キロにもなる。これは、成田からオーストラリアのシドニーの距離の3リになる。

有明センターでは、1日に1万5000立方メートルの水をよりにしています。



飲める水はどこからくるの?

ダム

川の

水のだびの始まりました



ここできれいにするよ

きれいな水をありがたう